

令和6年度「知」の集積と活用 の場 評価委員会議事要旨

1. 開催日時及び場所

- (1) 開催日時 令和7年2月20日(木) 10:00~12:00
- (2) 開催場所 農林水産省内会議室・オンライン (WebEX)

2. 委員数及び出席委員数

- (1) 委員数 5名
- (2) 出席委員数 5名

3. 出席者の氏名(敬称略)

評価委員：大滝義博、近藤孔明*、北岡康夫*、松井純*、加藤英司

「知」の集積と活用 の場 産学官連携協議会 事務局：

農林水産省農林水産技術会議事務局

大熊産学連携室長、栗本調査員、菅調査員

PwCコンサルティング合同会社

片桐紀子、峠雄斗、上敷領麻耶*、村井佳奈

*オンライン参加者

4. 議事要旨

【開 会】

農林水産省(大熊室長)による開会挨拶の後、事務局(農林水産省研究推進課産学連携室)から評価委員会開催要領(資料1)の内容について説明を行った。

【座長の選出】

評価委員会開催要領に基づき、評価委員会の座長として、株式会社バイオフロンティアパートナーズ代表取締役社長 大滝義博氏を選出した。

【運営細則について】

開催要領の運営細則案について事務局から説明を行ったところ、原案どおり承認された。

【議事1 令和6年度の活動に関する報告及びレビューについて】

事務局から、令和6年度の活動に関する報告及びレビュー(資料2~6)

について説明した後、評価委員による質疑・意見交換を行った。評価委員からの意見は以下のとおり。

- 活動全体は進んでいるという印象。ただし、研究開発プラットフォーム（以下、プラットフォーム）が農業政策の課題に関与し、解決できているのかという点について、農業政策課題毎にプラットフォームの統廃合が進められていないのではないかと印象がある。各省庁では、新しい産業創造ができる分野でベンチャーやユニコーン企業を支援するということが重視され始めている。様々な分野に満遍なく支援するよりは、新しい産業を作っていくことができる分野や農業政策課題を解決していくことができる分野など重点的に力を入れる分野が見えてくると良いと感じた。
- 地方では「知」の集積の活動はあまり知られていない。全国の自治会や地方の経営者協会、商工会等にも周知を行い、地方の現場に活動を知っていただくことも重要ではないか。
- 地方には東京で実施していることが伝わっておらず、反対に地方で行っている研究・取組が他の地域に伝わっていないという課題があると感じる。全国的で共有し、キャバを広げることで利益を生む可能性がある取組でも、地方でとどまってしまっている。各プラットフォームにも地域の役職者が入っていたが、10年近く経つと退任したりして、人が入れ替わり、繋がりが薄れてしまっている。地方でも成果等を共有し、農業者や農協、漁協等の方と意見交換を行うことで新たな発見があるのではないか。
- 社会課題が大きすぎることによって、社会課題の解決に向けて新しい産業を起こすことは難しい。そのために農業従事者、スタートアップ、大企業、国をどう繋げていくかを考える必要がある。ボトムアップの動きを待つだけでなく、トップダウンで戦略を描き予算等を拡充することによって、スタートアップや大企業を活動の中に取り込んでいかないと、インフラを変える様な成果を生み出すことはできないと考える。
- これまで各々のプラットフォームで活動を進めていたが、全体の流れを俯瞰することにより、他のプラットフォームが何をしているのかを把握し、連携することが必要となってくる。また、省内の中での連携だけで

なく、他省庁との連携の中で産業化を考えることも必要である。

【議事2 令和6年度の活動に対する評価について】

令和6年度の活動に対する評価、令和7年度に向けた課題、取り組むべき活動等について意見交換を行った。評価委員からの意見は以下のとおり。

- 個々の会員に対する支援はこれまで実施されてきているが、アウトプットに繋がる連携がなされていないと考える。そのため、資料5「産学連携協議会 活動報告書・レビューシート」の「会員のニーズをとらえた運営活動がなされているか」はB評価ではなく、A評価、「会員及びプラットフォームの連携を促進しているか。」はA評価ではなく、B評価としたい。
- プロデューサーの数は少ないものの能力は適切に発揮している印象である。そのため、資料6「産学連携協議会 活動報告書・レビューシート」の「プロデューサー人材が適切に能力を発揮しているか。」はB評価ではなく、A評価としたい。

(以 上)